



普通なら銀河へ捨てちゃうものの中にも、新しく使えるものが眠っているんです。

4月に遠路を開いて以降、四万十ケーブルテレビで情報を知ったという方などから、古道具を持ってきてくれたり連絡をしてくれたりする方が増えたといいます。「納屋や倉庫の整理に呼んでいただけることも増えました。お片付け中にその場で買い取りの選別をすることも可能です。その他にも昔おきゃくで使っていた小皿や、おうちで眠っている昭和の食器やグラスなどございましたらお声かけいただけると嬉しいです。こんなものは？みたいな相談だけでも大歓迎です。お気軽にご連絡いただけると嬉しいです。」と話す田村さん。「お客さんにこんな“古いもの”を集めていると話したときに、あ、それこないだ銀河へ捨てちゃったという方も多くいらっちゃって(笑)。普通なら捨ててしまうようなものでも、新しく使えるものが眠っているかもしれないので、ぜひ一度遠路までご連絡いただくと嬉しく思います。」皆さんの家で使わなくなったものでも、田村さんの手によって新たな使い方ができるものが眠っているかもしれません。



誰かと話をする、
想いを共有することで、
つながりが広まっていく。

はじめは1人で考えたり行動に移したりすることが多かったという田村さん。しかし、ビジネスプランコンテストで他の参加者の方たちと話をする中で、今までにない新しい気づきがあったといいます。「ビジネスプランコンテストは周りのみなさんの熱量をすごく感じる場でした。毎回参加者の皆さんと話をする中で、この話とこの話を組み合わせて協力できたらもっと上手くいくんじゃないかとか、誰かと話をして自分の考えや想いを共有することで、自分の考えやアイデアが広まっていきました。」と話す田村さん。参加者の皆さんと意見交換を重ねていく中で、最初に思い描いていた構想から変わったところもあったそうです。田村さんが大切にしている「新しいものをどんどん作るのではなく、今あるものを生かしていく」という考えを参加者の皆さんが認めてくれたことも、すごく嬉しかったと話してくれました。



ビジネスプランコンテスト2020最終審査でプレゼンを行う田村さん。「自分の考えを言葉にして誰かに伝えるということがすごく難しかったです。」と振り返ってくれました。



Facebook



@enrokochi



Instagram



@enro_kochi

至 松葉川
旧丸山小
遠路
至 窪川

古道具屋 遠路

四万十町東川角乙605-1

☎ 070-3662-7024

古いものに詰まっている思い出も、
新しく使う人に伝えていきたい。

田村さんは古いものを買取る時、持ち主の方に、誰が使っていたのか、どういう使い方をされていたのかを必ず尋ねるようにしているといいます。「買い取りに伺ったときに、タンスの引き出しの中とかには昔の表彰状が入っていたりして。その表彰状と一緒に見ながら、足が速くてねとか、絵が上手かったんだよとか、持ち主の方やご家族の思い出がそのものに詰まっているんです。」と話す田村さん。「新品のものもいいと思うんですけど、古いものには新しいものにはない誰かの思い出が詰まっているので、そんな思い出も、遠路に来てくださった方に伝えていけたらいいと思います。」と、穏やかな笑顔で話してくれました。

